

# 夜間保育

平成26年

2月5日 発行  
2013-2

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫  
編集責任 大阪市東淀川区東淡路2-7-5 保育所あすなろ内  
全国夜間保育園連盟事務局長 枝本信一郎  
電話 06-6328-8183 Eメール info@zenyahoren.jp

「夜間保育は、子どもの成長・発達に悪影響を及ぼすであらう」  
保育関係者を含め社会一般からのこの指摘は、1981（昭和56）年の夜間保育制度創設以来、魔女の口から発せられた「悪しき予言」のごとく、夜間保育に携わる私たちが悩ませてきました。

同様の表現として、「夜間保育は、児童福祉の目的である『児童の健全育成』の観点から、望ましくない」ともいわれました。以来30数年、全国にわずか80か所しかない認可夜間保育園は、この予言を払拭するため、各地で孤軍奮闘し、夜間に保育を必要とする子どもたちの幸せを守る実践を積み重ねてきました。また一方で、長年にわたる調査・研究により、この予言が真実ではないことを明らかにしてきました。

## 夜間保育と子どもたち☆30年の歩み

### —子どもとその保護者に寄り添い30年—

全国夜間保育園連盟会長 天久 薫

本書は、全国にある数少ない夜間保育の実践者や卒園時・保護者、そして関係者が、それぞれの立場から、夜間保育の真実について書きつづったものです。読者は、これらを読み進めていかれるうちに、夜間保育は、現実には決して子どもの成長・発達に悪影響を及ぼすものではないことを、むしろ、子どもの成長・発達に悪影響を及ぼす環境を改善し、子どもの健全育成に資するものであることを、感じ取っていただけるはずです。夜間保育が望ましくないのではなく、夜間保育を必要とする子どもの置かれた環境が望ましくないのであり、その厳しい環境に置かれた子どもを夜間保育によって少しでも望ましい状態に変えることが児童福祉の精神であることも分かっていただけることでしょう。その意味で、認可夜間保育園は、子どもにとってもまたその保護者にとっても、*「サライ」*として存在するのです。

全国夜間保育園連盟では、連盟創立30周年に当たり、記念誌を発刊することにいたしました。それも、単なる内部向けの記念誌ではなく、より広く外部の多くの方々に夜間保育を知っていただくための記念誌として発刊することにしました。

保育界は今、大揺れの時代を迎えています。2015（平成27）年度からは、子ども・子育て支援新制度が開始される予定で、現在子ども・子育て会議が急ピッチで進められています。しかし、新制度そのものがどうなるのか今の段階でも詳細がわからず、ましてや夜間保育のゆくえはそれこそ暗闇の中です。この時期に当たり、これまで30年間の全国の認可夜間保育園の歴史や実践・成果を記録として残しておくことは意義のあることだと考えます。

福祉施設としての矜持を保ち、福祉の心を失うことなく、夜間に保育を必要とする子どもたちの幸せをひたすら守り続けようとする全国の認可夜間保育園の真の姿を、ご覧いただきたく存じます。ひとりでも多くの方に、とりわけ若い保育士、研究者、行政関係者の方にご一読願えれば幸いです。

2014年1月

全国夜間保育園連盟会長

天久 薫

## 全国夜間保育園連盟の30周年に思う — ようこそ京都にお越しいただきました —

全国夜間保育園連盟の30周年を記念する経験交流研修会が、夜間保育が産声を上げた、この京都で開催され、全国からたくさんの方々が集えることを心から嬉しく思っております。

終戦直後の貧しさと混乱の中、お寺を全面的に開放して昭和25年に保育園を開設しました。当時は児童福祉法によって午前8時から午後4時までの8時間保育と決まっていたのですが、主人である園長が「行政の措置にもれた子を助けるのもお寺の仕事、一緒に頑張ろう。」と、午後10時まで預かる夜間保育をスタートしました。夜間保育園という当時全国に例のない施設を開くには、行政の認可ばかりでなく、家族の協力、働く保育士（保育士）の理解がなくてはなりません。それに、夜間保育を担当する保育士（保育士）が得られるか、乳幼児の福祉と教育の調和をどう図っていくのか、必要な設備の資金はどうするなど、難しい問題はいっぱいありました。結局「必要がある以上誰かがやらな

ければならない。市に要求すべきことは要求して、みんな力で力を合わせてやろう。」と開設を決意し、昭和31年5月に市の特別委託事業として開園することになったのです。

今大会では、その後の経済成長とともに乱立した劣悪な環境のベビーホテルの実態を世に問うドキュメントを製作され、公的夜間保育の必要性に光を当てて頂いた、堂本暁子先生の特別講演も予定されています。先生の視点にはいつも社会の片隅の立場の弱いものへのエールが込められているように思います。どんなお話を聞かせて頂けるか、楽しみにさせて頂いています。

全国の仲間とつながり合い、学び合いながら30年。時代や制度が変われども、夜間保育の信念は開設当時と何ら変わることはありません。それが「抱きしめる保育」です。そこに保育を必要とする子どもがいるのです。一人一人を抱きしめ、抱きしめながら働く親の姿をしみこませるようなことをか

けます。「今でんしゃの中で〇〇ちゃんのこと考えているよ。」そんな保育士との関わりを通して、子どもは、息を切らせてお迎えに来た親にしがみつきます。先生が3時間抱っこしても、親の5分の抱きしめにはかなわないのです。「遅くまで預けられて…」と、子どもをかわいそうな子にしない。ぎゅつと抱きしめて、どの子もたくましく育つようこれからも力を合わせ参りましょう。

だん王保育園 信ヶ原千恵子



「夜保連 30周年大会記念大会おめでとうございます！」  
夜間保育を全国に先駆け公的に開始なさった信ヶ原先生の本拠地京都で、本大会が開催されることは、大いに意義がある事とお喜び申し上げます。大会が成功裡に終幕できる事をお祈り申し上げます。

平成9年、県のモデル事業としてスタートした沖繩県初の夜間保育園も今年16年目。昼夜併設型で30人定員の小規模ですが、零歳〜5歳までの子ども達が兄弟姉妹のように支え合いながらも、もう一つの温かい家庭を形成しています。当初は課題のある保護者もあり、園で解決できないケースは関係機関に繋ぎながら、子ども達の育ちを見守ってきました。

子ども・子育て会議において、今後、夜間保育園の位置づけがどうなるか気になるところですが、私達は、子ども達の最善の利益をしっかりと守っていかねばならないと、持っています。会員一同皆で頑張りましょう。

沖繩県 玉の子夜間保育園

園長 高良 恵子

全国夜間保育園経験交流研修会  
30周年、心よりお慶び申し上げます。

天久会長をはじめ歴代の役員の方々にこれまでのご苦勞とご功績に感謝し、敬意を表します。

保育所制度も国の社会保障制度改革の中で大きく変わろうとしています。まず、子ども・子育て支援が国の社会保障制度の中で優先的に取り組むことが明記されました。そのことにより、財源の安定と少子化対策を含めて、子育て支援が大きく展開するものと思われます。

さらに安倍内閣では、これからの日本の発展は女性の力が必要だと明言し、単なる労働力確保だけでなく人財として政治や行政、企業においても一定の率の女性の幹部への登用することを検討されています。

これからの日本は女性の力にかかっているとされています。最近の例では、昨年のノーベル賞を受賞した山中教授のiPS細胞以上に期待の声もあがっているS

TAP細胞の作製を 30歳の女性研究者が成し遂げました。この研究の成果はこれから世界の注目を集めそうです。

女性が社会の中心的な存在として活躍していくためには、今まで以上に子育てへの支援が重要となり、保育所が果たす役割はますます大きくなると思われます。そういった状況の中で、今後の夜間保育所は「夜遅くまでの質の高い長時間保育」を基本的な特色とし、対象者である家庭と子どもの変則的な生活というニーズに対して専門的支援と相談機能が充実した保育所として位置づけられ、存在価値を上げていかなければなりません。そういった意味でも、我々夜間保育園関係者に求められる使命は大きなものだと感じております。

30周年を節目に、当研修会がさらにご発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

きりん夜間愛育園

理事長 高岡國士

## こぼと夜間園を振り返って

昭和58年8月夜間園舎の竣工式を行ったのが、この間のように思い出しますのに、もう30年経ちました。

夜間園とは、思いもありませんでしたが、当時劣悪な環境の下でベビーホテルでの乳児の死亡事故が大きな社会問題となり、市の要請を受け開園しました。

開園当初、想像し難い社会の一端を垣間見て、どうすることも出来ない無力を感じました。保護者の中には地獄のような生活をしておられるところもあり、一日も早く、一家団欒の家庭を持つて貰いたいと祈りにも似た思いを抱きました。日々何とか役に立ちたいと思ひ、子ども達を安心して預けてもらい、また子ども達も園で元気に楽しく過ごしている姿をみても

られるように、家庭的な雰囲気作りを心がけ、子ども達に人としての存在に相応しい成長をして欲しいと努力しました。

子どもの生活基盤は家庭であり、心の拠りどころは親を抜きにして考えられません。今では、殆

どの保護者がそれぞれの分野で活躍し頑張っておられるので、ある意味安心ですが、世の中が便利になり、また国内外で様々な問題が起き、さらに情報が氾濫し、子育てが難しくなってきたように思います。

朝早くから遅くまで仕事をされ、家で子どもと向き合うことが難しい家庭もありますが、少しの時間でも子どもに寄り添って絵本の読み聞かせや、親子で簡単な遊びをして貰えたらと遊びを紹介したり、絵本の貸し出しをしています。

いつの時代になっても「子育て」は、手間暇をかけ、愛情を惜みなく注がなければならぬと思います。

夜間園では、暖かい雰囲気の中で、異年齢で過ごし、一人ひとりの情緒が安定して、自己を発揮し、友達と知恵を出し合って遊ぶことが楽しいと実感できるようにしています。

こぼと夜間保育園

園長 橋本さかゑ



## 30周年を振り返って

30周年、おめでとうございます。保育園を巣立った子どもたちは、社会貢献のできる大人へと成長しています。

時折、顔を見せに来てくれたり、「せんせい元気」など電話で元気な声を聞かせてくれたり、この仕事を続けさせていただいてるおかげで、卒園後の子ども達の姿を知ることが出来、この仕事について良かったと思える嬉しく、そして感謝の瞬間がやってきます。

夜間保育園の今後も、明るいと信じて、職員一同一丸となって、日々精進し子ども達の成長を見守らせていただきながら、ともに歩んで行きたいと思っています。そして、夜間保育に携わられた先人の全国の諸先輩方に感謝致します。

衆善会夜間保育園

## 夜間保育園での出会い

成人式を終え、夜間保育園の職員(学童担当)にLINEでAさんから成人式の着物の写真が送られて来た。写真の隣は同じく園の卒園児である男の子とのツーショット。区役所の成人式で久しぶりに合い、なつかしくて一緒に撮ったのである。うすグリーンの綺麗な晴れ着姿の彼女は最高の笑顔とピース。一枚の写真ではあるが、その写真を見ながら何とも言えない安堵感。「おめでとう！立派に成人したね！」と彼女が傍にいたらぎゅっと抱きしめたい心情であった。



夜間保育園を通してたくさんの家族と子どもたちに出会ってきた。ただ家族の就労時間が夜型なだけで、何の心配もない家庭がほとんどであったが、中には卒園後、消息がわからず、心配な家庭や子どももいる。また、時々園に現れるが、思春期の真ただ中で、変貌した言動に胸が痛み、どう言葉をかけていいかわからずただ、ひたすら彼らの話を聞いて「また、遊びにおいで。みんな待ってるよ。」と背中をさすることしかできなかったことも数々ある。Aさんはその一人であった。

彼女はLINEにその写真と共に「保育園にはむっちゃ感謝してる。いい思い出しかないし、保育園じゃなかったら今の私じゃなかったと思う。子どもできたら預けたいくらい！」そんなメッセージを送ってきた。私はその職員に「保育士冥利につきるね。しっかりと受け止め、いろんな事に寄り添ってきたことへの褒美。ご苦労様。」と声をかけた。



彼女は今立派に社会人になり、自立への道を歩み始めている。小さな時、「お母さんが困るから」と熱が出ていても職場に電話をかけるだけでと保育士にお願いしていた母親思いの彼女。20歳の笑顔はその幼い無邪気な時の笑顔と違って、夜間保育園で育ったこと、そこで温かく受け入れられていたこと、そして本人がそれを今知っていることが何より幸いだったと思う。

夜間保育園の大きな役割の一つであろう。いつか、彼女が本当にお母さんになって子どもを預けてくれることを心待ちにしたい

ナルド夜間保育園 金 恵栄

## 夜間保育園はセーフティーネット

光の春となり間もなく卒園式。離乳食からずっと1日2回の完全給食を食べて大きくなった子どもたちを見ると、「この子たちの体の2/3は保育園が提供した食事です。できてのんだなあ」と感慨一入になります。だからこそ食材に必要な食品添加物や遺伝子組換え、残留農薬、放射性物質等が含まれていないか、常に注意深く調べて発注しています。

夜間保育園の特色のひとつは、園児全員が夕食を園で食べることです。栄養士は子どもたちがおいしく楽しく食べられるよう献立や盛り付けを工夫しています。安全で質の良い食材を購入できるのも、運営費に夜間保育加算があるからです。これが昼間保育園の延長保育との大きな違いだと思います。当園を利用している保護者の多くは、(保育時間7:00～22:00)東京、横浜方面への遠距離通勤者、医療関係者、研究職、自営業等で、園で夕食を済ませているからこそ、心にゆとりが持て安心して子育てと仕事が続けられると

## お祝い

全国夜間保育園連盟には、平成15年の開所当時からお世話になり、今年で11年目を迎える事になりました。

私自身も連盟の役員を2期務めさせていただきましたが、その間には、全国の夜間保育園の園長先生や職員の皆さまと出会い、夜間保育に対する基礎的なことから存在意義に至るまで色々な事を学ばせて頂きました。

最近の出来事では、2年前に新横浜プリンスホテルで開催した、神奈川県内の夜間保育園職員交流会が印象に残っています。

当日は100名近くの仲間が参加してくれ、とても活発な意見が飛び交う交流会となりましたが、更に良かったのは、実行委員会の先生方との繋がりが深められた事でした。

実行委員で顔を合わせるにつれ、それぞれの園との共有が深まり、信頼関係が増した事は、当日の運営を円滑に進めただけでなく、その後、保育園同士の職員交代実習にも大きな役割を果たして

くれました。

夜間保育園は、全国的にも数が少ないために共有する相手が少なく孤立しがちです。

今後の保育制度の改正では、夜間保育園にはあまり明るい材料は見えてきませんが、夜間に保育園で過ごす子どもたちの未来のために、また、夜間保育園で働く職員を元気にするために連盟の発展に期待しています。

元ペガサス夜間保育園

園長 小田 真







夜間保育所ドリーム職員一同

## 30周年記念誌

### 出版をお祝いします

夜間保育と子どもたち ☆30年のあゆみのご出版、真におめでとうございます。

夜間保育の歴史が凝縮された内容に歴代の先輩方の保育に対する熱意・努力が伝わってきます。その素晴らしい思いが、一冊の形となったことに敬意を表すと共に、改めてお喜び申し上げます。冊子に書かれた主旨を踏まえ、今後の私たちの保育を振り返る手引きとして活用していきます。

## 全国夜間保育園連盟30周年おめでとうございます。

さらら保育園は、開園して一年余りが過ぎました。まだまだ歩き出しの一歳児です。

当園は、久留米市の中心にあり、園舎は三階建てで近隣には公園もあり恵まれた環境の中にあります。日々の保育において、天気の良い日はお散歩へ出掛け、0歳児は園舎の特徴を生かし階段の登り降りを保育に取り入れています。また、屋上の固定遊具などを利用して太陽の恵みを身体に受ける事で運動能力の発達を促し心身共に豊かな子どもに育つ保育をしています。夜間保育の中では、家庭的な雰囲気第一に考え、生活リズムの確立を目指し日々保育を行っています。

保育園では「保育に欠ける」を前提に保育を行っています。保育に欠けるとは、仕事をしているという事だけではありません。例えば、産前産後、病気やけが又は精神的・身体的に障害がある、同居の親族を介護している、災害復旧にあたっては、求職中など色々な理由があります。昨今では、子どもの保育だけではなく、保護者支援も求められています。必要あるところに必要な支援を!! 手を差し伸べ職員一人ひとりが全力で保護者と向き合い信頼関係を培ってきた事で現在、定員を超えるまでとなりました。また、多様化する

就労形態の中で夜間働く保護者が急激に増加している事に驚きを隠せません。

私たちは、保育園としての経験を積み重ね保護者のニーズに合った受入れ体制を整えていきます。これからも関係機関と連携を図り、夜間保育園連盟が企画する研修等積極的に参加したいと思いついで宜しくお願ひします。

記念誌の出版でより多くの方々に夜間保育を知っていただき働きながら子育て出来る保護者に寄り添った保育を目指し、これからも夜間保育の特徴を生かし地域に根付いていきたいと考えています。

さらら保育園



当園は、平成13年12月に新潟駅前にて、当初2名の園児で、認可外24時間保育園を開園しました。平成22年8月、社会福祉法人笑顔の会を設立し、エンジェル認可保育園を開園しまして、今年で4年目をむかえることになりました。

現在は116名の園児が毎日元気に登園しております。昨年より夜間保育園連盟に加入させて頂きました。全国夜間保育園連盟の皆様方におかれましては、現在の夜間保育制度の整う前から、積極的に時間外の子ども達に、手を差し伸べる社会福祉活動を続けられてきた事は、どれだけの艱難辛苦を乗り越え、今日に至ったのか想像に難しくはありません。法人設立前、あまりのハードルの高さに諦めかけた私達を『大丈夫よ!』と明るく何度も励まして下さいました。先生方の励ましが無ければ、時間保育園は設立出来てはいませんでした。

これからもエンジェル保育園は皆様方のご指導を仰ぎながら、新潟で24時間保育を積極的に推進してまいりたいと思います。

エンジェル保育園

園長 鈴木 成実

## 30周年に寄せて

全国夜間保育園連盟創立30周年、おめでとうございます。

さまざまな思い出が蘇ってきます。

夜間保育園の子どもたちは、夕食の家族団らんの時間を保育園ですごしているわけですが、とても楽しそうにわいわい言いながら食事をしている姿を見ると、微笑ましく感じます。でも寝る前に保護者のお迎えが来て、嬉しそうに帰っていく友達を羨ましそうに見送る子どもの姿や、夜中に寝ているところを起こされて、眠たそうに変える姿を見ました。子どもたちは、満たされない心を持ちながらも、いきいきと生きる力を育んでいると感じます。

仕事に追われ、精神的余裕をなくし子どもとゆっくり関わることでできない保護者に対しては、保育士が親をサポートする必要があると思いますが、親を信頼する姿勢はなくてはいけないと思います。

保育の質の向上ということが言われていますが、私たち保育士は



毎日の保育がマンネリに陥らないように、常に問題意識を持って保育していかねばならないし、子ども達にとって居心地のいい場所にならねばならないと思います。

気持ちを新たに、夜間保育を充実させていきたいと思えます。

エール保育園

## 「夜間保育への思い」

ゆったりとした雰囲気、家庭的な雰囲気の中で、子ども達がのびのびと楽しく過ごす事ができるように：そのような思いを持って、毎日、子ども達と関わっています。

夜間保育園の子ども達は、保育時間の長い子どもが多いので、居心地の良い場所である事を心がける事によって、保護者の方々も仕事を頑張り、安心して預けているのだと思います。

私は、学生の時に夜間保育というものを知りました。保育時間が長く、家庭での時間が少ないという事で、何となく可哀相というイメージがありました。子ども達は、夜間保育での生活を楽しんでいましたし、みんな元気で明るく、何よりとてもしっかりしているなあと印象でした。子ども達にとって、親との関わりの時間は、大切だと思えますが、時間が短いか長いかというよりも、一緒にいる時間をどう使うかが大切なのではないかと思っています。

当園では、保育士や友達、異年齢の子どもとの関わりも深く、信頼関係や思いやりを持って子ども同士が関わっています。小さい頃からお姉さん、お兄さんからして

きてもらった事を良く見ていて、はじめは、真似るところからはじまり、大きくなると、小さい子どもに對してお世話をしてあげたり、色々なお手伝いを自然にしてくれる姿がたくさん見かけられます。夜間保育園での関わりや経験を通して、これからも優しくたくましく育ってほしいと思います。

「夜間保育園大好き！」と言ってくれる子ども達。子どもの思いをしっかりと受け止めて関わりながら、保護者との信頼関係を築いて、子ども、保護者、保育士、みんなで成長していける夜間保育園でありたいと思います。

第二わかば園

副主任保育士 小畑菜奈美





## 夜間保育園の3年間を振り返って

創立25周年を迎える高松第二保育園は、夜間保育園です。

長時間保育のこともたちが、「日の大半を過ごしているから、大家族の第二のわが家」であってほしいと、職員一同が常に心がけています。

初めて夜間保育園専任になった年、子ども達一人一人の居場所作りとして少人数のグループをつくり、そこに職員が入り、食事することにしました。ある日の夕食時、「家だったらお父さんやな」というと、同テーブルの女の子が「じゃあ私はお姉ちゃん」と言い、小さい子のお世話を始め、あつという間に他のグループにも広がりました。時には褒め、時には叱り、まさに昭和のちゃぶ台を囲む食事風景でした。

会話をすることで少しずつ信頼関係ができ、子ども達も親しみを持って接してくれるようになりました。夕方出勤し、園庭を通ると笑顔で飛んできては「先生、今日は何するん？」と聞いてくれる子どもたち：嬉しい反面、改めて魅力がある保育内容を見直す必要があると感じました。

園外保育などの行事は子ども達

が一番楽しみにしているものです。春の園外保育、白鳥が橋の下で卵を温めていました。「先生は白鳥が私のあげたパン食べてくれたあ」「お父さんがこわい顔をしているんは子どもを守りよんやー」など豆博士たちは大発見の感動を目を輝かせて話してくれました。一つの体験から多くのことを学んだり、また、保育者や友達と共感することで自己肯定感が育って行くのがよくわかりました。

入園当初の子どもたちに限らず、保護者と離れる時間が長く、然も夜間の子どもでもあり、ともすれば欲求不満になりがちな子どもたちの気持ちを十分にくみ取り、耳を傾け、子ども自身が自発的になおかつ意欲的に楽しみながら関われる環境作りを行うことが何より大切だと思っています。それらを家族に発信し、共に子育てをしていきたいと感じています。

先輩の語り継がれてこられたことを改めて自覚しつつある毎日です。

高松第二保育園

藤本 真悟

“2月9日より先行発売中！”

本体価格：2000円+税  
お申込みは  
全国夜間保育園連盟事務局へ



### 事務局通信

全国夜間保育園連盟設立30周年を控え、『本を出版しよう』ということになった時、良くある『記念誌』にだけはしたくない!!『夜間』という時間から眺めた保育の本質と親のうめきを世に問えるような本でなければ、出版するに値しない…などの論議を経て、2013年3月の園長総会で承認、出版の運びになりました。

…とは言うものの、私たちの思いを受けて出版してくれる出版社はいずこに！誰がまとめるのですかと苦悩の日々。顧問の櫻井先生が、渦中の栗を拾うことがとき心境でお引き受けいただき、併せて出版社が京都の北大路書房に決まりました。

そうなるも、欲が出て、2014年2月に開催される第25回全国夜間保育園経験交流研究会で参加者にお渡ししたい!!とゆうことで、編集委員の疾風怒涛の日々が始まりました。【笑】

原稿をお寄せいただいた先生方や、写真やカットなど、本当に沢山の方々のご協力くださいました。

深く感謝します。全国夜間保育園連盟と子どもたちの明日の為に…

二〇一四年二月九日

全国夜間保育園連盟事務局 岡戸 淳子